

歳で76.5%、65～69歳で78.0%となっており、男性と比較して上昇幅は小さいものの、やはり60歳を境に非正規職員・従業員比率は上昇している（図1-2-4-3）。

エ 定年到達者の8割以上が継続雇用されている

60歳定年企業における定年到達者の状況をみると、平成26（2014）年6月1日時点において、過去1年間の定年到達者のうち、継続雇用された人の割合は81.4%となっている（図1-2-4-4）。

(2) 高齢者の雇用情勢は改善傾向

高齢者の雇用情勢をみると、平成19（2007）年から22（2010）年は経済情勢の急速な悪化を受けて60～64歳の完全失業率は上昇していたが、23（2011）年以降は低下し、60～64歳

の完全失業率は15歳以上の全年齢計（3.6%）を下回った（図1-2-4-5）。

(3) 労働力人口

平成26（2014）年の労働力人口は、6,587万人であった。

労働力人口のうち65歳以上の者は696万人（10.6%）となり、労働力人口総数に占める65歳以上の者の比率は、昭和55（1980）年の4.9%から大きく上昇した（図1-2-4-6）。

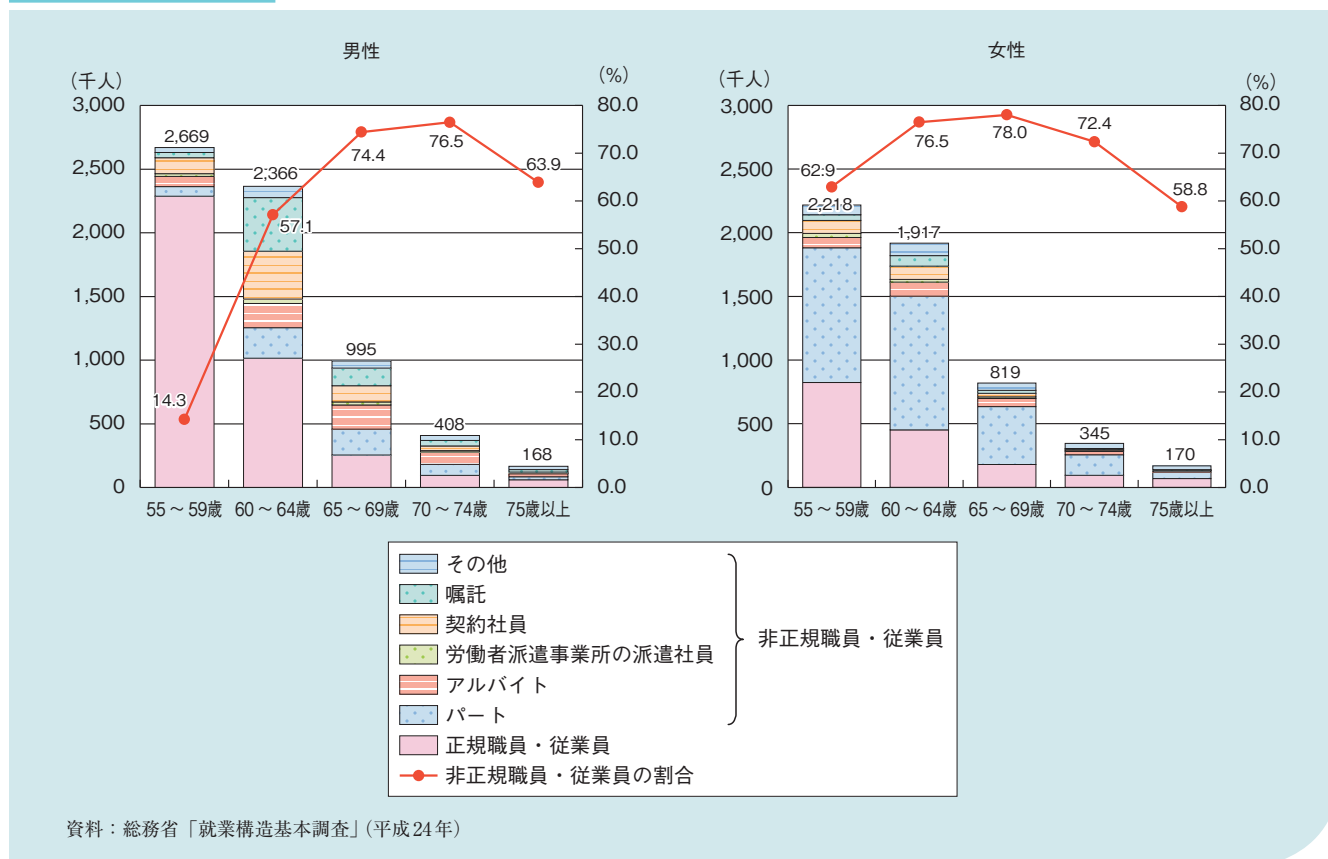
5 高齢者の社会参加活動

(1) 高齢者のグループ活動

ア 60歳以上の6割がグループ活動に参加したことがある

自主的なグループ活動への参加状況について

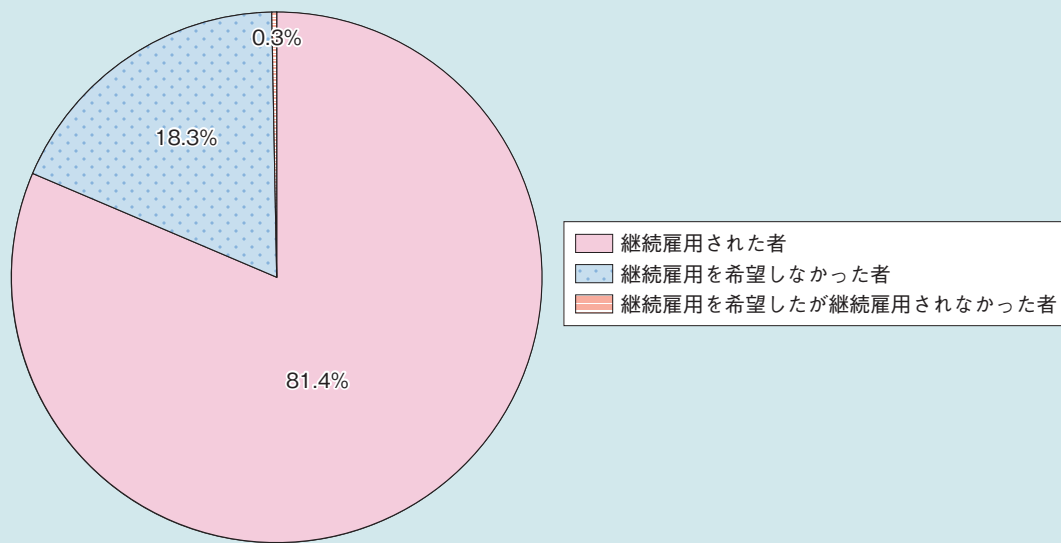
図1-2-4-3 性年齢別雇用形態別雇用者数及び非正規雇用者率（役員を除く）



みると、60歳以上の高齢者のうち61.0%（平成25（2013）年）が何らかのグループ活動に参加したことがあり、10年前（15（2003）年）と比べると6.2ポイント、20年前（5（1993）年）に比べると18.7ポイント増加している。

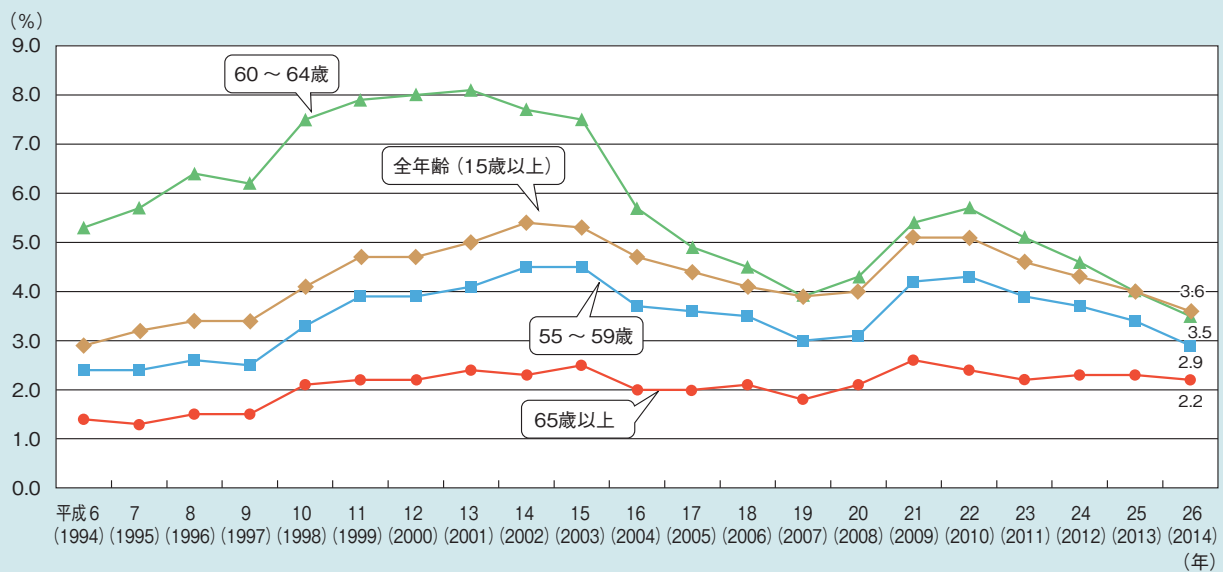
具体的な活動についてみると、「健康・スポーツ」（33.7%）、「趣味」（21.4%）、「地域行事」（19.0%）の順となっており、特に「健康・スポーツ」は10年前に比べ8.4ポイント、20年前に比べ14.8ポイント増加している（図1-2-5-1）。

図1-2-4-4 60歳定年企業における定年到達者等の状況



資料：厚生労働省「平成26年「高齢者の雇用状況」集計結果」
 (注) 常時雇用する労働者が31人以上の60歳定年企業のうち、過去1年間（平成25年6月1日から平成26年5月31日）における定年到達者を集計。

図1-2-4-5 完全失業率の推移



資料：総務省「労働力調査」
 (注1) 年平均の値。
 (注2) 平成23年は岩手県、宮城県及び福島県において調査実施が一時困難となったため、補完的に推計した値を用いている。

イ グループ活動に参加してよかったことは「新しい友人を得ることができた」、「生活に充実感ができた」

自主的なグループ活動に参加している高齢者が活動全体を通じて参加してよかったことは、「新しい友人を得ることができた」(48.8%)が最も多く、次いで「生活に充実感ができた」(46.0%)、「健康や体力に自信がついた」(44.4%)の順となっている。

男女別にみると、男性では「地域社会に貢献できた」(32.7%)が、女性では「お互いに助け合うことができた」(37.2%)が4番目に多い(図1-2-5-2)。

ウ 参加したい団体は「趣味」のサークル・団体、参加している団体は「町内会・自治会」

高齢者が参加したい団体は「趣味のサークル・団体」(31.5%)が最も多く、次いで「健康・スポーツのサークル・団体」(29.7%)となっている。

一方で、参加している団体をみると、「町内会・自治会」(26.7%)が最も多く、約4人に1人が参加している。

「町内会・自治会」については、「参加している」(26.7%)が「参加したい」(20.6%)を6.1ポイント上回っている(図1-2-5-3)。

図1-2-4-6 労働力人口の推移

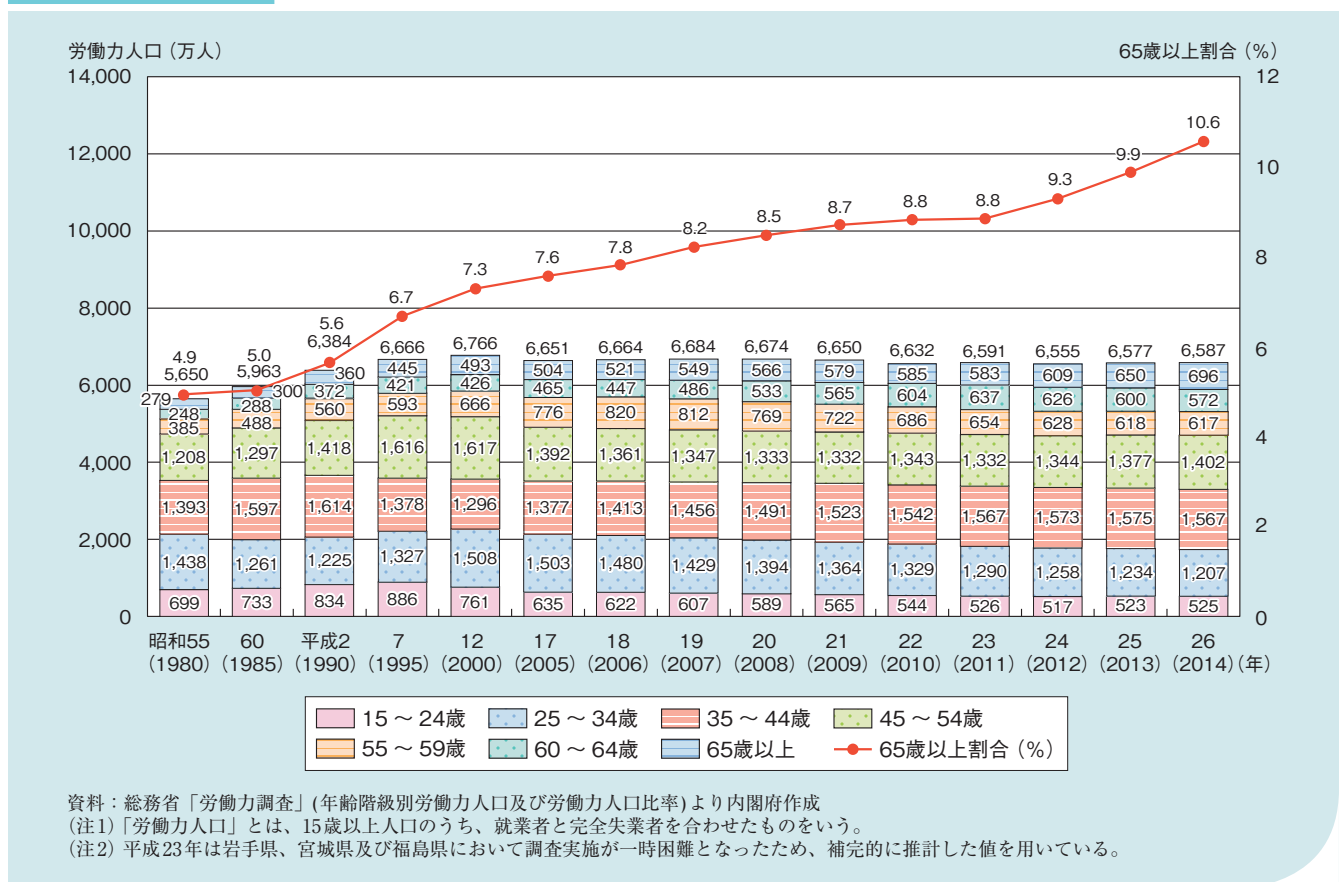
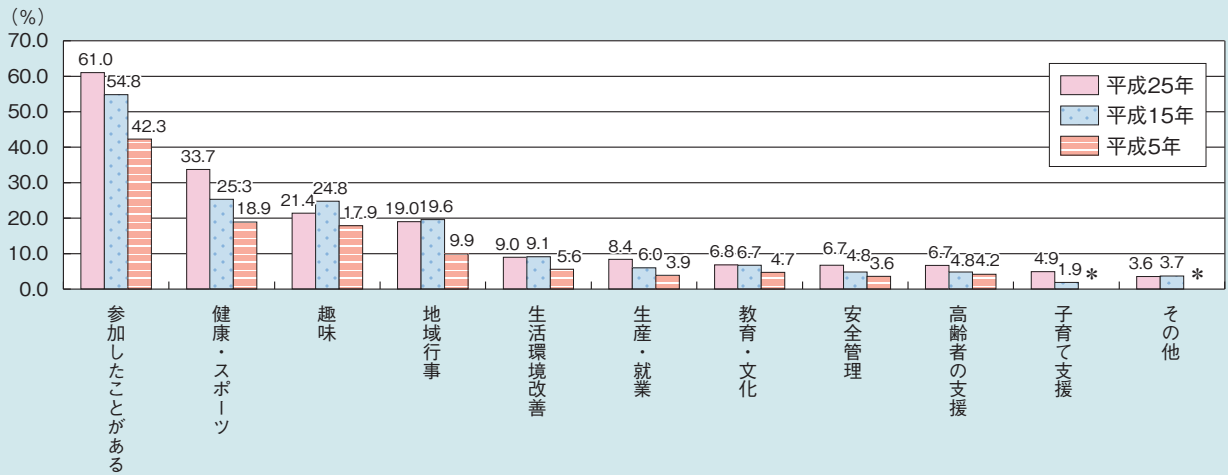
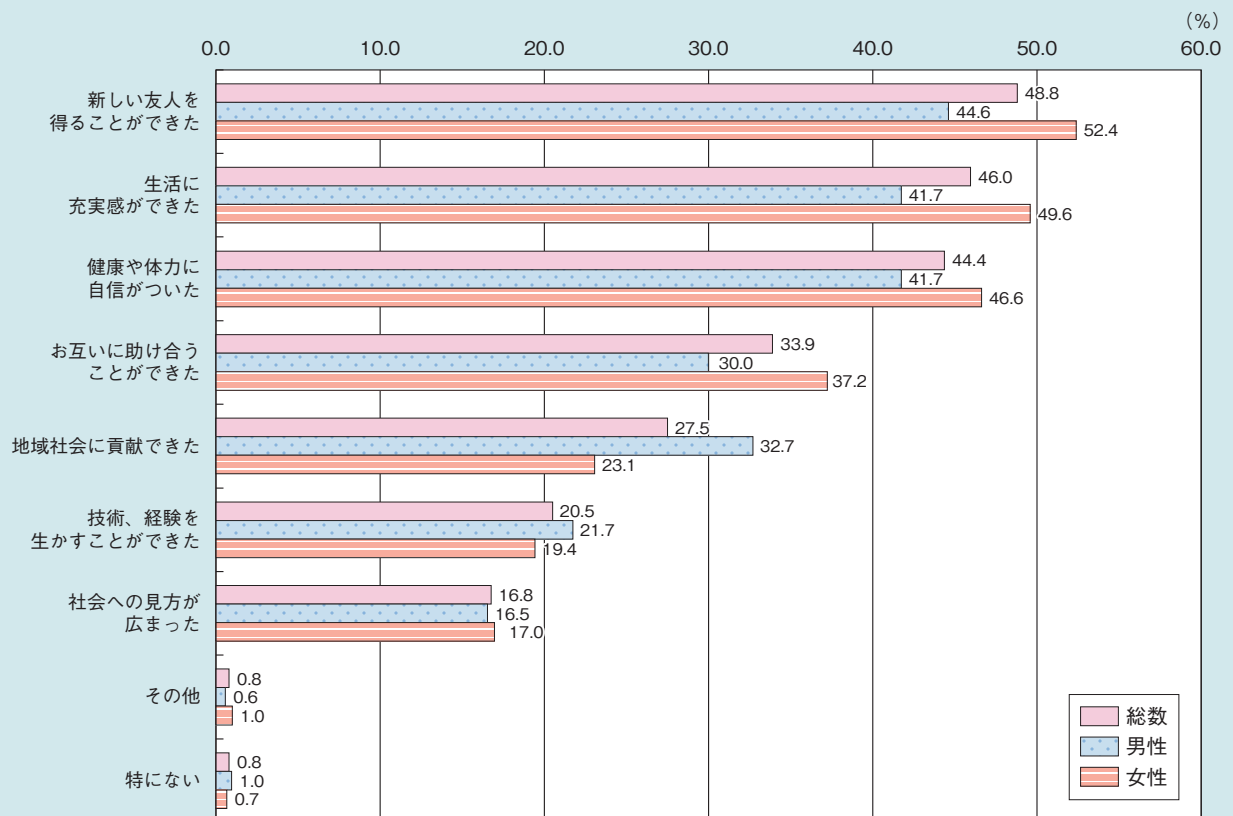


図1-2-5-1 高齢者のグループ活動への参加状況



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成25年)
 (注1) 調査対象は、全国の60歳以上の男女
 (注2) *は、調査時に選択肢がないなどで、データが存在しないもの。

図1-2-5-2 高齢者のグループ活動参加による効果 (複数回答)



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成25年)
 (注) 調査対象は、全国の60歳以上の男女